

『天文学史と長久保赤水』正誤表

P.27L12

皆既日食がおこり

↓

皆既日食ではなかった。

東亜天文学会の栗田和実様より金環日食ではなかったかのご指摘をいただいた。相馬充氏の研究では、 $\angle T$ の値 (P.172 注釈 161 参照のこと) を前後近接の現象から追い込み、より精度を高めてようとの試みが見られる。しかし、水島で金環食であるための条件としては $1103 \text{ 秒} < \angle T < 2020 \text{ 秒}$ なのだが、この値は流動的に捉えられている。理由として $\angle T$ が比較的短時間で変動し、水島における日食では金環食条件の境界線上にほぼ当たるということから。従って結論としては「金環食であってもおかしくはないが、金環食すれすれの部分食であった可能性も」あり、「金環食であったどうかは極めて微妙である」としている。いずれにしても、この相馬氏の研究により金環食かそれにきわめて近い食分であったことが明らかにされた。

相馬氏ら (上田暁俊、谷川清隆両氏との共同研究) の詳細な検討内容は「1183 年 11 月 17 日の水島日食前後の $\angle T$ 」という論文に詳しい。

P.49 下から 4 行目

日下英明

↓

草下英明

P.55L2

(岩波文庫『魏志倭人伝・後漢書倭人伝・叢書倭国伝』1951 年 P.80)

↓

(岩波文庫『魏志倭人伝・後漢書倭人伝・宋書倭国伝』1951 年 P.80)

P.83L8

最後の太陰太陽暦

↓

最初の太陰太陽暦

P.112L13

新^し発^ぱ田^た侯

↓

新^し発^ぱ田^た侯

P.133L10

「常陸両毛及ビ信州ノ和算家に就テ」(掲載誌不明 1933 年)

↓

「常陸両毛及ビ信州ノ和算家ニ就テ」(掲載誌不明 1933 年)

P.145L17

長久保赤水死後 35 年には

↓

長久保赤水死後 34 年には

P.153L27

(山本光雄『初期ギリシャ哲学者断片』P.86)

↓

(山本光雄『初期ギリシャ哲学者断片集』P.86)

P.160L21

日本民話の海外国民話研究会編訳『世界民間文芸叢書別巻 太陽と月と星の民話』

↓

日本民話の会外国民話研究会編訳『世界民間文芸叢書別巻 太陽と月と星の民話』

P.177 最終行

井本進 (1SN2020tlf901-1981)

↓

井本進 (1901-1981)

P.180 下から 5 行目

周惇頤

↓

周敦頤

P.184 注 238) L.5

長久保片雲著『江戸時代最後の巨星 長久保赤水』

↓

長久保片雲著『江戸時代後期の巨星 長久保赤水』